

## レポート課題とレポートを書く順序

研究分野や書き手によって、多少の異なりがあると思いますが、一般的に言って、最も「書きやすく」「分かりやすい文章になる」順序は、以下のものでしょう。

### STEP 1 1 ▶▶ 解答例

- 第1章 はじめに ( 6 ) あるいは ( 5 )  
第2章 先行研究について ( 1 )  
第3章 調査の概要 ( 2 )  
第4章 調査結果と考察 ( 3 )  
第5章 結論と今後の課題 ( 4 )  
引用文献一覧 ( 5 ) あるいは ( 6 )

#### 「第1章 はじめに」が一番最後に書くのがよい

多くの人は、このことを知らず、冒頭からレポートを書こうとします。その結果、なかなか書けない、ということになってしまうのです。では、どこから書き始めるのがよいのでしょうか。

#### 「第2章 先行研究について」から書き始めるのがよい

答えは、「第2章 先行研究について」から書き始める、です。19章の方法で先行研究を探したら、図書館に行って、最低でも、論文2本は読むようにしてください。実際には、「レポートであれば先行研究を読む必要がない」という場合もあるかもしれません。しかし、先行研究を見ることによって、「その分野でどのようなことが研究されているのか」や「その分野の論文の書き方はどのようなものか」等が分かるので、本テキストでは、先行研究を大切にしたいと思います（先行研究を見ていれば、レポートの評価も高くなります）。入門的な論文で構いませんので、「最低2本読む」に挑戦してみてください（なお、卒業論文の場合は、もっと多くの論文を読む必要がありますし、教員によっては、レポートでも、より多くの先行研究を読む必要があるという人もいます）。

#### 「第2章 先行研究について」を書くとき気分が楽になる

論文を読んだら、その論文がどのようなことを明らかにしているのか、早速、書

いてみましょう。もうそれがレポートの一部なのです。先行研究に書いてあることをまとめるだけなので、比較的簡単に、レポートを書くことができます。既にレポートを書いているという事実は、気分を楽にします。

#### 次に「第3章 調査の概要」「第4章 調査結果と考察」を書く

「第3章 調査の概要」で、どのような調査をしたかを書きます。書き方のコツは27章で述べますが、自分が調査したことを書けばよいのですぐに取り組むことができます。それが終わったら、どのような調査結果になったのか、そして、その結果はどう解釈できるのかを「第4章 調査結果と考察」で、書いてみましょう。調査結果は、事実をそのまま書けばよいので、それほど難しくありません。考察は、やや難しい感じもしますが、不安を感じる必要はありません。「調査結果から、どのようなことが分かったのか（あるいは、調査結果を自分はどうのように考えるのか）」を、自分なりに、ストレートに書いてみましょう。期末レポートであれば、基本的にそれで大丈夫だと思います。

#### 「第5章 結論と今後の課題」「引用文献一覧」を書く

ここまでできたら、レポートはできたも同然です。「第5章 結論と今後の課題」で、このレポートで分かったこと等を書き（29章で書き方のコツを述べます）、「引用文献一覧」を作成しましょう（23章を参照してください。見直しの時間を入れても、比較的、短時間で書くことができます）。

#### 最後に「第1章 はじめに」を書く

そして、最後に、「第1章 はじめに」に取り組むわけですが。この段階では、もう、「レポートで取り組んだこと」「先行研究で明らかにされていること」「先行研究で明確になっていないこと」「調査の概要」「調査結果と考察」等は全て分かっています。それをそのまま書けばよいだけです。そうすれば、分かりやすい「第1章 はじめに」のできあがりです。同時に、期末レポートも完成するというわけですが。

どうですか。最初からレポートを書き始めるより、こちらの方が、簡単だと思いませんか。もしよかったら「先行研究について」から書くこの方法を試してみてください。レポートや論文は書ける部分から書いた方が気が楽ですし、自分なりの見通し（あと4時間くらいでできるな等）も持てるようになります。

このようなわけで、以下、このテキストでは、先行研究について（26章）→調査の概要（27章）→調査結果と考察（28章）→結論と今後の課題（29章）→はじめに（30章）の順で、進めていきたいと思っています。